

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻
学位論文 要旨

組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンとしての機能に関する研究

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 医療保健学専攻
博士課程
領域名 看護学
学籍番号 HG117001
氏 名 小澤知子

背景 (Background or Introduction)

日本の医療は、少子高齢化と医療費抑制政策に伴う課題を抱えており、病院における変革は必須な状況である。先行研究では、組織変革においては、変革の移行段階が特に重要であると指摘されている。

病院における組織変革は経営幹部により意思決定され牽引される。経営幹部が意思決定した方針が、成功裏に実現するかどうかは、組織全体のほぼ半数を占める看護部の人員配置や業務状況といった動向が大きく影響する。変革移行期における方針決定においては、看護部としての状況分析や見通しの判断が適時に提供され、有機的に共有されることが必須であり、看護部長の果たす機能は大きい。そのため、経営幹部の一員であり、かつ、看護部門の責任者という2つの集団に属する看護部長が、組織の中でいかに情報の流れを与えながら、組織の上下、左右の各階層に対し働きかけ、双方向的な影響過程を作り上げるための連結ピンとしての機能を果たしているのかが重要となる。

しかし、先行研究からは、看護部長が、病院組織の変革移行段階においてどのような機能を果たしたかについての研究は見当たらない。

目的 (Objective)

本研究は、組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンとしての機能を明らかにすることを目的とする。

方法 (Methods)

調査は、看護部長を取り巻くシステムや状況を1フィールドと捉え、その行為が置かれた文脈に即して立体的に浮かび上がらせるという意図で、その現象としてかかわる人々からのデータも広く収集し、単一事例研究法を用いた。

本研究では、看護部長の「連結ピン」の機能が鮮明に表れる事例として、医療職の労働環境改善を目指し、強制力を伴って進められている働き方改革を採用した。対象者は1病院の看護部長、病院長、経営幹部4名、副看護部長2名であり、半構造的インタビュー

ならびに資料を用いて時系列に整理しながら、質的記述的分析とエスノグラフィーを参考にした分析を行った。これにより、看護部長が果たした連結ピンとしての機能を抽出し、組織変革移行期における看護部長の連結ピンの機能について、その意義を考察した。

結果(Results)

働き方改革において、看護部長が果たした連結ピンの機能は、経営幹部や他部門や自部門など上下左右の間で【支持的関係の維持】をしながら【意思決定を導く調整】を繰り返し行い、自部門へ【方針を実務へつなげる】ことになり、同時に、【社会的ネットワークの構築と活用】をしながら、経営方針とつなげ、看護師の労働環境の変革、看護師の専門性を活かした活用、看護業務の効率化と人材確保、持続可能な働き方の実現に向けて【創発的な働き方の支援】を導くことや、【組織運営の担い手の先を見通す】ことにより変革活動の継続に寄与していたと考えられた。【開放的でチャレンジのできる職場づくりと維持】は、連結ピンとして、コミュニケーションを円滑に行いながら、同時に、双方向的な影響過程を作り上げる働きを内包する機能を有していると考えられた。

結論 (Conclusions)

- 1) 組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンの機能は、【支持的関係の維持】をしながら【意思決定を導く調整】を繰り返し行い、自部門へ【方針を実務へつなげる】ことであるといえる。同時に、【社会的ネットワークの構築と活用】をしながら、経営方針とつなげ、【創発的な働き方の支援】を導くことや、【組織運営の担い手の先を見通す】こと、【開放的でチャレンジのできる職場づくりと維持】は、看護部長の働きかけを促進している要素であると同時に、影響過程を作り上げている働きを内包する機能であることが明らかとなった。
- 2) 看護部長の連結ピンの機能は、医療の質と病院経営の質を両輪として組織間コミュニケーションを円滑にし、関係者の意思決定を導き、看護部門の実務に反映させることで、変革活動のインテグレーションを後押しすることとなり、組織変革における看護部長のあり方が示唆された。
- 3) 組織変革に関する研究は、文脈の中で、かかわる人々からのデータも広く収集することで、その意味や背景を解釈し、より理解を可能にする。
- 4) 本研究は単一事例研究であり、組織における看護管理実践に関する示唆に富んだ事例であるが、その知見は個別事例に拘束されたものであり、理論的一般化には限界がある。今回の事例は、好事例から分析を行ったが、逆の反例（変革が進まない事例）との比較や複数ケースの追試、他の変革現象などと比較を行うことで、本研究の事例から得られた結果をより確かなものとするのが課題である。

Key Words 組織変革、連結ピン、看護部長の機能、看護マネジメント